

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	舞鶴工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
	機械工学科			15	10	25	7	
	電気情報工学科			15	0	15	7	
	電子制御工学科			16	4	20	7	
	建設システム工学科・都市環境コース			17	11	28	7	
	建設システム工学科・建築コース			17	17	34	7	
	総合システム工学専攻・電気電子システム工学コース				8	8	7	
	総合システム工学専攻・機械制御システム工学コース				16	16	7	
	総合システム工学専攻・建設工学コース				26	26	7	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.maizuru-ct.ac.jp/wp-content/uploads/2020/06/jitsumu_2020.pdf

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	舞鶴工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 理事（役員）名簿の公表方法

[https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/upload-file%20folder/02_%E4%BA%BA%E4%BA%8B/NewFolder/yakuinmeibo\(20200401\).pdf](https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/upload-file%20folder/02_%E4%BA%BA%E4%BA%8B/NewFolder/yakuinmeibo(20200401).pdf)

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	熊本大学長	2016年4月1日～ 2024年3月31日	理事長
常勤	豊橋技術科学大 学理事・副学長	2020年4月1日～ 2022年3月31日	研究・産学連携 情報システム
非常勤	東京大学教授	2014年4月1日～ 2022年3月31日	男女共同参画推進
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	舞鶴工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>開講している全科目について、科目担当教員が科目基礎情報、到達目標、ルーブリック、学科の到達目標項目との関係、教育方法、成績の評価方法・評価基準、授業計画、評価割合を、Web シラバス上で入力し、作成されたシラバスについては、教務委員会、教育プログラム委員会で確認の上、年度当初よりホームページ上で公表している。</p>	
授業計画書の公表方法	https://www.maizuru-ct.ac.jp/campuslife/syllabus/
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>(1) 講義科目においては、科目ごとに到達目標を設定し、平常の取り組み(演習、宿題、レポートなど)と定期試験の結果を総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価している。到達度と評価基準は以下のとおりである。</p> <p>100～90 A+、89～80 A、79～70 B、69～60 C 59～0 F (不合格)</p> <p>(2) 実技・実験・実習・演習などの実践科目においては、課題の取り組み状況、レポート、発表などを総合的に勘案し、設定された到達目標に対する到達度を評価している。</p> <p>(3) 卒業研究(本科)及び特別研究(専攻科)においては、研究成果、研究発表、質疑応答、取り組み姿勢、論文などを総合的に勘案し、設定された到達目標に対する到達度を評価し、60%以上の到達度をもって合格としている。</p> <p>(4) 卒業設計(建設システム工学科)においては、発表の内容、質疑応答、取り組み姿勢、論文などを総合的に勘案し、設定された到達目標に対する到達度を評価し、60%以上の到達度をもって合格とする。</p>	

<p>3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) (※令和2年度より適用)</p> <p>成績評価の指標として、平均点により成績の分布状況を把握している。各学年での平均点の算出は、次の要領で行う。</p> <p>(1) 規程第3条第3項で定めた平均点には参入しない科目を除いたすべての当該学年の科目を、平均点算出の科目とする。</p> <p>(2) 平均点算出の科目のそれぞれの単位数を総和する。これを単位数の総和という。</p> <p>(3) 平均点算出の科目の評価点にそれぞれの科目の単位数を乗じ、それらの積を総和する。</p> <p>これを評価点の総和という。</p> <p>(4) 評価点の総和を単位数の総和で除した商を平均点とする。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>https://www.maizuru-ct.ac.jp/wp-content/uploads/2020/04/binran_R2.pdf (学生便覧 P65)</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>教育理念、専攻科修了者像、各学科の人材養成の目的などに基づいて、本科卒業ならびに専攻科修了を認定するための要件として、また、卒業時ならびに修了時に学生が修得すべき能力を表すものとして、学習・教育到達目標を定めている。</p> <p>校長は、教員会議の議を経て、次の各号の要件をすべて満たした者を、本校全学年の課程を修了したものと認定し、卒業させる。</p> <p>(1) 卒業単位数を満たしていること。</p> <p>(2) 必修科目の単位をすべて修得していること。</p> <p>(3) 科目群必修単位数をすべて満たしていること。</p>	
<p>卒業の認定に関する方針の公表方法</p>	<p>https://www.maizuru-ct.ac.jp/introduction/aim/?id=policy</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	舞鶴工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/documents/zaimusyohyoH30.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/documents/zaimusyohyoH30.pdf
財産目録	
事業報告書	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/H30jigyohokokusho1.pdf
監事による監査報告(書)	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/kanjiikenH30.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の年度計画 対象年度:令和2年度)
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/nendo-R2.pdf
中長期計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の中期計画 対象年度:平成31年(2019年)4月1日から令和6年(2024年)3月31日まで)
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/chuukikeikaku-4th.pdf

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.maizuru-ct.ac.jp/introduction/public_information/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 機械工学科
教育研究上の目的 (公表方法 : https://www.maizuru-ct.ac.jp/introduction/aim/)
(概要) あらゆるものづくりの基礎となる、機械工学の基礎知識と技術を習得し、環境とエネルギーに配慮できる実践的・創造的技術者を育成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針 (公表方法 : https://www.maizuru-ct.ac.jp/introduction/aim/?id=policy)
(概要) 教育理念、各学科の人材養成の目的などに基づいて、本科卒業を認定するための要件として、また、卒業時に学生が修得すべき能力を表すものとして、学習・教育到達目標を定めている。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法 : https://www.maizuru-ct.ac.jp/introduction/aim/?id=policy)
(概要) 1) 機械工学分野の基礎工学である材料、流体、熱、振動などの力学について、これらの知識を体系的に修得させる科目を開設します。 2) 機械工学分野の統合化の基盤となる設計、加工、制御、計測、電気工学など、生産技術に関わる知識を修得させる科目を開設します。 3) 機械技術者として必要な技術的スキル、主体的・能動的な実践力およびチームとしての協調性を育むため、実験・実習・演習科目を効果的に配置します。またそれらの科目、卒業研究などを通じて、問題発見・分析・解決能力また成果の発表・報告能力などを総合的に養います。 4) 機械工学の専門知識を統合して、技術に関わるデザイン能力や創造能力を育むため、創造演習、創造設計製作および卒業研究などの科目を開設します。 5) コンピュータを技術の実践に活用する能力を養うため、情報リテラシー、プログラミングの基礎、数値計算、メカトロニクスなどについて、これらを学習する科目を開設します。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法 : https://www.maizuru-ct.ac.jp/introduction/aim/?id=policy)
(概要) 機械工学科では、理論と現象を正確に理解し、いろいろな事態に的確に判断でき、それを実行できる行動力を持った技術者の育成を目指しています。機械工学は、あらゆる「ものづくり」の基礎をなす学問であるからです。本学科では、次のような人の入学を期待しています。 ・「ものづくり」が好きな人、関心がある人 ・「自動車」、「ロボット」や動くものが好きな人、関心がある人 ・身体が不自由な人のための福祉機械に興味がある人

学部等名 電気情報工学科
教育研究上の目的 (公表方法 : https://www.maizuru-ct.ac.jp/introduction/aim/)
(概要) 電気・電子工学及び情報・通信工学の分野の基礎知識と技術を習得し、環境とエネルギーに配慮できる実践的・創造的技術者を育成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針 (公表方法 : https://www.maizuru-ct.ac.jp/introduction/aim/?id=policy)

<p>(概要)</p> <p>教育理念、各学科の人材養成の目的などに基づいて、本科卒業を認定するための要件として、また、卒業時に学生が修得すべき能力を表すものとして、学習・教育到達目標を定めている。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.maizuru-ct.ac.jp/introduction/aim/?id=policy）</p>
<p>(概要)</p> <p>1) 高度情報化社会の将来を担う実践的技術者を育成するため、電気系科目群、電子系科目群、情報系科目群、通信系科目群を開設します。</p> <p>2) 講義で学んだことを体得するために、電気・電子・情報・通信の4分野を複合的に組み合わせさせた実験・実習科目群を開設します。</p> <p>3) 4分野の専門知識を連携させる能力と豊かな創造力・発想力を養うため、問題解決型授業科目群を開設し、工学基礎研究・卒業研究を行います。</p> <p>4) 上記の実験・実習科目群、問題解決型授業科目群、工学基礎研究・卒業研究では、チームで活動するために必要なコミュニケーション能力や、課題の提案・報告を行うプレゼンテーション能力も併せて育成します。</p> <p>5) コンピュータを技術開発に活用する能力を育成するため、情報系科目群および実験・実習科目群を開設します。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.maizuru-ct.ac.jp/introduction/aim/?id=policy）</p>
<p>(概要)</p> <p>電気情報工学科では、将来に渡って「発想の泉」となる工学基礎科目の上に立ち、電気・電子系及び情報系科目の幅広い分野を勉強します。本学科では、次のような人の入学を期待しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電気・電子、情報・通信分野に関心がある人 ・ハードウェア、ソフトウェアなどの「ものづくり」ができるようになりたい人 ・「自分の志」を抱いて、基礎科目を継続的に学習できる人

<p>学部等名 電子制御工学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：https://www.maizuru-ct.ac.jp/introduction/aim/）</p>
<p>(概要)</p> <p>電子・機械システム及び制御・情報技術を幅広く修得し、それらを融合したメカトロニクス技術分野において、環境とエネルギーに配慮した設計・開発・管理運営ができる実践的・創造的技術者を育成することを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：https://www.maizuru-ct.ac.jp/introduction/aim/?id=policy）</p>
<p>(概要)</p> <p>教育理念、各学科の人材養成の目的などに基づいて、本科卒業を認定するための要件として、また、卒業時に学生が修得すべき能力を表すものとして、学習・教育到達目標を定めている。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.maizuru-ct.ac.jp/introduction/aim/?id=policy）</p>

<p>(概要)</p> <p>1) 機械と電気・電子を融合したメカトロニクスシステムを開発し、システムに機能を付加する能力を育成するために、機械系科目群、電気・電子系科目群、制御・計測系科目群、情報系科目群を開設します。</p> <p>2) 専門知識を統合してメカトロニクスシステムを創造し、様々な機能創成に必要なデザイン能力と創造能力を育成するために、創造設計科目および卒業研究を実施します。</p> <p>3) メカトロニクス技術者に必要な主体的・能動的実践力を育成するために、実験・実習・演習科目群を開設します。</p> <p>4) 上記の創造設計科目、実験・実習・演習科目群、卒業研究では、チームで活動するために必要な能力や、課題の提案・報告を行う能力も併せて育成します。</p> <p>5) コンピュータを技術の実践に活用する能力を育成するため、プログラミング、CADによる演習科目群を開設します。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.maizuru-ct.ac.jp/introduction/aim/?id=policy）</p>
<p>(概要)</p> <p>電子制御工学科では、メカトロニクス技術者の育成を目指し、機械系、電子・電気系、制御・計測系及び情報系の幅広い分野を勉強します。本学科では、次のような人の入学を期待しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロボットの設計製作や制御応用に関心のある人 ・電子回路やマイコンを使ったものづくりをしたい人 ・コンピュータや「もののしくみ」に興味を持ち、好奇心旺盛な人

<p>学部等名 建設システム工学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：https://www.maizuru-ct.ac.jp/introduction/aim/）</p>
<p>(概要)</p> <p>安全で快適な社会の創造とそのための基盤を、計画・建設・維持する基礎知識と技術を習得し、環境とエネルギーに配慮できる実践的・創造的技術者を育成することを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：https://www.maizuru-ct.ac.jp/introduction/aim/?id=policy）</p>
<p>(概要)</p> <p>教育理念、各学科の人材養成の目的などに基づいて、本科卒業を認定するための要件として、また、卒業時に学生が修得すべき能力を表すものとして、学習・教育到達目標を定めている。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.maizuru-ct.ac.jp/introduction/aim/?id=policy）</p>
<p>(概要)</p> <p>1) 災害に強い、自然と調和した、快適な地域社会を創り、運営できる土木技術者と建築技術者を育成するため、土木工学分野と建築学分野の専門科目群を開設します。</p> <p>2) 創造能力やデザイン能力を育成するため、設計製図や工学実験・実習、卒業研等の科目群を開設します。</p> <p>3) 主体的・能動的な実践力を育成するため、設計製図や工学実験・実習、情報処理、卒業研究等の科目群を開設します。</p> <p>4) チームで活動する能力や課題の提案・報告を行う能力を育成するため、設計製図や工学実験・実習、卒業研究等の科目群を開設します。</p> <p>5) コンピュータ技術を実践に活用する能力を育成するため、設計製図や情報処理等の科目群を開設します。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.maizuru-ct.ac.jp/introduction/aim/?id=policy）</p>

ct.ac.jp/introduction/aim/?id=policy)
<p>(概要)</p> <p>建設システム工学科では、21世紀の住みよい社会を創ることを目的として、その計画、運営、維持を行うことのできる素養を身につけるための勉強をします。本学科では、次のような人の入学を期待しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然環境と調和した街づくりに熱意を持っている人 ・災害に強く、安全な社会づくりに興味を持っている人 ・建設技術に関する知識を修得し、地域社会の発展や国際貢献に関わりたい人

学部等名 総合システム工学専攻 電気電子システム工学コース
<p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法： https://www.maizuru-ct.ac.jp/wp-content/uploads/2020/04/tebiki_sen_R2.pdf)</p>
<p>(概要)</p> <p>本校の電気情報工学科、または電子制御工学科で修得した、もしくはこれらと同等の基礎学力と専門知識に基づき、電気・電子工学、情報・通信工学、制御工学等に係わる、より高度で実践的な最新の技術教育を行い、電気電子物性および電力・制御・情報通信システム等の分野で活躍し、地域の発展のために地域社会に貢献できる独創性豊かな研究開発型の技術者の育成を目指します。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：https://www.maizuru-ct.ac.jp/introduction/aim/?id=policy)</p>
<p>(概要)</p> <p>教育理念、専攻科修了者像、各コースの教育目的などに基づいて、専攻科修了を認定するための要件として、また、修了時に学生が修得すべき能力を表すものとして、学習・教育到達目標を定めている。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.maizuru-ct.ac.jp/introduction/aim/?id=policy)</p>
<p>(概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 人文社会および自然科学に関するより高度な一般科目群を開設します。 2) 融合複合技術に対応できる能力を育成するために、数学および複合分野・融合分野に係る高度な専門共通科目を開設します。 3) 電気電子物性および電力・制御・情報通信システム等の分野での研究開発能力を育成するために、発展的な内容を扱う電気・電子系科目、情報・通信系科目、制御系科目を開設します。 4) 高度な専門知識を統合して電気電子系分野に係る問題解決や技術開発能力を育成し、課題の提案や報告を的確にまとめ発表する能力も併せて育成するために、特別研究基礎、特別研究を実施します。 5) 電気電子系の研究開発型技術者に必要なデザイン能力を養うとともに、主体的・能動的実践力を育成し、チームで取り組むために必要な能力も併せて育成するために、実験・実習・演習系科目を開設します。
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.maizuru-ct.ac.jp/introduction/aim/?id=policy)</p>

<p>(概要)</p> <p>専攻科では、優れた資質の技術者を養成するため、次のような入学者を期待しています。</p> <p>(1) 技術社会の中核を担う者として、社会で広く活躍し貢献していく意欲のある人</p> <p>(2) 専攻科生としての自覚と確かな目標をもち、自主的に学習・研究する意欲が高く、十分な基礎学力を身につけている人</p> <p>(3) コミュニケーションの能力と物事を筋道立てて考察する力があり、自己の考えを適切に表現することができる人</p> <p>(4) しっかりとした社会性と倫理観をもち、そして自ら考え、適切に行動できる人</p>
--

<p>学部等名 総合システム工学専攻 機械制御システム工学コース</p>

<p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法： https://www.maizuru-ct.ac.jp/wp-content/uploads/2020/04/tebiki_sen_R2.pdf)</p>

<p>(概要)</p> <p>本校の機械工学科または電子制御工学科で修得した、もしくはこれらと同等の基礎学力と専門知識に基づき、先端材料、流体工学、熱工学、制御技術およびメカトロニクス等に係わる、より高度で実践的な最新の技術教育を行い、機械システム、制御システム等の分野で活躍し、地域の発展のために地域社会に貢献できる独創性豊かな研究開発型の技術者の育成を目指します。</p>
--

<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：https://www.maizuru-ct.ac.jp/introduction/aim/?id=policy)</p>
--

<p>(概要)</p> <p>教育理念、専攻科修了者像、各コースの教育目的などに基づいて、専攻科修了を認定するための要件として、また、修了時に学生が修得すべき能力を表すものとして、学習・教育到達目標を定めている。</p>
--

<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.maizuru-ct.ac.jp/introduction/aim/?id=policy)</p>
--

<p>(概要)</p> <p>1) 人文社会および自然科学に関するより高度な一般科目群を開設します。</p> <p>2) 融合複合技術に対応できる能力を育成するために、数学および複合分野・融合分野に係る高度な専門共通科目を開設します。</p> <p>3) 機械システム、制御システム等の分野での研究開発能力を育成するために、発展的な内容を扱う材料・流体・熱系科目、制御・メカトロニクス・生産系科目および電気電子系科目を開設します。</p> <p>4) 高度な専門知識を統合して機械制御系分野に係る問題解決や技術開発能力を育成し、課題の提案や報告を的確にまとめ発表する能力も併せて育成するために、特別研究基礎、特別研究を実施します。</p> <p>5) 機械制御系の研究開発型技術者に必要なデザイン能力を養うとともに、主体的・能動的実践力を育成し、チームで取り組むために必要な能力も併せて育成するために、実験・実習・演習系科目を開設します。</p>

<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.maizuru-ct.ac.jp/introduction/aim/?id=policy)</p>
--

<p>(概要)</p> <p>専攻科では、優れた資質の技術者を養成するため、次のような入学者を期待しています。</p> <p>(1) 技術社会の中核を担う者として、社会で広く活躍し貢献していく意欲のある人</p> <p>(2) 専攻科生としての自覚と確かな目標をもち、自主的に学習・研究する意欲が高く、十分な基礎学力を身につけている人</p> <p>(3) コミュニケーションの能力と物事を筋道立てて考察する力があり、自己の考えを適切に表現することができる人</p>

(4) しっかりとした社会性と倫理観をもち、そして自ら考え、適切に行動できる人

学部等名 総合システム工学専攻 建設工学コース
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.maizuru-ct.ac.jp/wp-content/uploads/2020/04/tebiki_sen_R2.pdf)
(概要) 本校の建設システム工学科で修得した、もしくはこれらと同等の基礎学力と専門知識に基づき、構造・耐震、建設材料、地盤、水圏環境、防災、まちづくり、建築設計、建設環境、建設計画等に係わる、より高度で実践的な最新の技術教育を行い、環境やエネルギーに配慮した自然災害に強い安全な社会基盤および建築物の設計・施工・維持管理等の分野で活躍し、地域の発展のために地域社会に貢献できる独創性豊かな研究開発型の土木・建築技術者の育成を目指します。
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.maizuru-ct.ac.jp/introduction/aim/?id=policy)
(概要) 教育理念、専攻科修了者像、各コースの教育目的などに基づいて、専攻科修了を認定するための要件として、また、修了時に学生が修得すべき能力を表すものとして、学習・教育到達目標を定めている。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.maizuru-ct.ac.jp/introduction/aim/?id=policy)
(概要) 1) 人文社会および自然科学に関するより高度な一般科目群を開設します。 2) 融合複合技術に対応できる能力を育成するために、数学および複合分野・融合分野に係る高度な専門共通科目を開設します。 3) 環境やエネルギーに配慮した自然災害に強い安全な社会基盤および建築物の設計・施工・維持管理等の分野での研究開発能力を育成するために、発展的な内容を扱う構造、水工、土質等の土木系科目および建築計画、建築環境、建築構造等の建築系科目ならびにこれらの共通系科目を開設します。 4) 高度な専門知識を統合して土木・建築系分野に係る問題解決や技術開発能力を育成し、課題の提案や報告を的確にまとめ発表する能力も併せて育成するために、特別研究基礎、特別研究を実施します。 5) 土木・建築系の研究開発型技術者に必要なデザイン能力を養うとともに、主体的・能動的実践力を育成し、チームで取り組むために必要な能力も併せて育成するために、実験・実習・演習系科目を開設します。
入学者の受入れに関する方針（公表方法： https://www.maizuru-ct.ac.jp/introduction/aim/?id=policy)
(概要) 専攻科では、優れた資質の技術者を養成するため、次のような入学者を期待しています。 (1) 技術社会の中核を担う者として、社会で広く活躍し貢献していく意欲のある人 (2) 専攻科生としての自覚と確かな目標をもち、自主的に学習・研究する意欲が高く、十分な基礎学力を身につけている人 (3) コミュニケーションの能力と物事を筋道立てて考察する力があり、自己の考えを適切に表現することができる人 (4) しっかりとした社会性と倫理観をもち、そして自ら考え、適切に行動できる人

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.maizuru-ct.ac.jp/wp-content/uploads/2020/06/organization20200401.pdf>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	2人	—					2人
人文科学部門	—	3人	2人	3人	1人	0人	9人
自然科学部門	—	4人	3人	3人	1人	0人	11人
機械工学科	—	5人	3人	0人	1人	0人	9人
電気情報工学科	—	4人	4人	1人	1人	0人	10人
電子制御工学科	—	4人	4人	1人	1人	0人	10人
建設システム工学科	—	5人	2人	2人	1人	0人	10人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		34人					34人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： https://www.maizuru-ct.ac.jp/introduction/faculty/					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
次の事項をFD活動として実施している。							
1. 授業アンケート、達成度評価 学生に対して行った授業アンケート結果（本校で開講されている全科目）を参考資料として全教員に開示し、教員間の議論を促し、学校全体の授業改善につなげている。							
2. 授業公開 授業を公開した教員は、学内評価者と学外評価者による授業評価、学生の意見及び教員や保護者によるアンケート結果を基にして授業改善プランを検討し、報告書を提出している。							
3. 授業参観 全教員は他の教員の授業を1つ以上参観し、全教員の4つのグループに分けて会議を開催し、各グループでは上記の議題のうち1つをテーマとして議論を行い、それらの結果は各グループの主査からFD・ICT部会に報告されている。							
4. 教育連絡会議 年度ごとに主たる検討テーマを設定し、全教員を4つのグループに分けて会議を開催し、各グループでは上記の議題のうち1つをテーマとして議論を行い、それらの結果は各グループの主査からFD・ICT部会に報告されている。							
5. FD・ICT特別講演会 毎年1回以上、教育研究活動に資するための講演会を実施している。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
機械工学科	40人	43人	107.5%	200人	193人	96.5%	若干名	0人
電気情報工学科	40人	42人	105%	200人	209人	104.5%	若干名	1人
電子制御工学科	40人	40人	100%	200人	199人	99.5%	若干名	0人
建設システム工学科	40人	42人	105%	200人	201人	100.5%	若干名	0人
合計	160人	167人	104.4%	800人	802人	100.3%	若干名	1人
総合システム工学専攻	16人	27人	168.8%	32人	44人	137.5%	0人	0人
合計	16人	27人	168.8%	32人	44人	137.5%	0人	0人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
機械工学科	40人 (100%)	16人 (40.0%)	23人 (57.5%)	1人 (2.5%)
電気情報工学科	32人 (100%)	13人 (40.6%)	17人 (53.1%)	2人 (6.3%)
電子制御工学科	28人 (100%)	14人 (50.0%)	14人 (50.0%)	人 (%)
建設システム工学科	36人 (100%)	15人 (41.7%)	21人 (58.3%)	人 (%)
総合システム工学専攻	14人 (100%)	4人 (28.6%)	10人 (71.4%)	人 (%)
合計	150人 (100%)	62人 (41.3%)	85人 (56.7%)	3人 (2.0%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) 開講している全科目について、担当教員が Web 上で科目基礎情報、到達目標、ルーブリック、学科の到達目標項目との関係、教育方法、成績の評価方法・評価基準、授業計画、評価割合を入力し、年度当初より公表している。
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 科目ごとに到達目標を設定し、平常の取り組み（演習、宿題、レポートなど）と定期試験の結果を総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価している。到達度と評価基準は以下のとおりである。 100～90 A+、89～80 A、79～70 B、69～60 C 59～0 F（不合格） 校長は、教員会議の議を経て、次の各号の要件をすべて満たした者を、本校全学年の課程を修了したものと認定し、卒業させる。 (1) 卒業単位数を満たしていること。 (2) 必修科目の単位をすべて修得していること。 (3) 科目群必修単位数をすべて満たしていること。				
学部名	学科名	卒業に必要な 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
	機械工学科	167 単位		
	電気情報工学科	167 単位		
	電子制御工学科	167 単位		
	建設システム工学 科	167 単位		
	総合システム工学 専攻	62 単位		
GPAの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：https://www.maizuru-ct.ac.jp/introduction/public_information/

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
	機械工学 科	234,600 円	84,600 円	74,500 円～ 92,500 円	(内訳) スポーツ振興センター共済掛金 (後援会 費から支払い) 教科書代 約 50,000 円 後援会費 24,500 円 学生会費 6,000 円 (本科生のみ) 寄宿料 8,400 円～9,600 円 (寮生のみ) 寮生会費 2,400 円 (寮生のみ)
	電気情報 工学科				
	電子制御 工学科				
	建設シス テム工学 科				
	総合シス テム工学 専攻				

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 修学に関する要望について、学生、保護者と協議の上、合理的配慮と認められる場合は、 修学上の支援を行っている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 主に、各学年を対象とした各種進路ガイダンス、本科3・4年生と専攻科1年生を対象とし た学校説明会 (進学希望者向け) やキャリアセミナー (就職希望者向け)、本科4年生と専 攻科1年生及びその保護者を対象とした三者懇談会を行っている。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) カウンセラーによるカウンセリングを実施しているほか、学生相談室主催で学生を対象と した放課後ティータイムの年3回の実施ならびに全学生を対象とした学校適応感尺度調査を 年2回実施するなどの取組を行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：https://www.maizuru-ct.ac.jp/introduction/public_information/